

の破かいであり、これが寒波の吹き出しにつながる。日本と中国とは場所が異なるので同じ予報則が適用出来るかどうか疑問があるが原則はかわらないだろう。

blocking の破かいを知るためシノプチックな法則を2個示す。まず500MB面でも等温線と等高線の位相が同じである場合は等温線の振巾の方が大きいことが必要である。また振巾が同じで等高線の波の位相の方が遅れている場合でもよい。これ等の場合はいずれもトラフの前方で寒気移流があり blocking はこわれる。(筆者註、blocking のある場合には寒波の吹き出しは妨げられるが、blocking がこわれると吹き出しのおそれが出来るということであろう)

質問7 成層圏中の超長波に関するお話は我々がとりわけ興味深く聞いたが、長期予報にどのように適用出来るかその将来のみとおしを伺いたい。

答 勿論超長波は長期予報に関係があることは間違いない。しかし我々は今シノプチックにも理論的にも長期予報については研究中である。

世界の気象界をみても未だ大した成果は得られていない。シノプチックな面では資料を短期予報のためでなく長期予報用にもっと整理検討しなければならない。勿論 Namias や Mintz は1月平均図を用いて非常に興味ある基礎研究を行っているが、未だ全般に準備段階というべきである。

一方理論的な面から見ると世界で多くの人達が長期予

報のための数値実験をやっているが Smagorinsky の研究等を見ても非常に複雑なモデルが用いられるようになっていて成果はそれ程上っているとは思えない。我々はむしろ目下モデルの能力についての基礎的な研究を行っている段階である。

勿論中国でもルーチンには統計的な方法で長期予報が行われている。

この他 blocking の数値モデルについて、blocking の発生頻度について、人工降雨について、台風の変形について、文献や資料の入手について若干の討論がなされたがこゝでは割愛する。たゞ中国では日本より更に夏の乾季をはじめ雨不足の影響が大きいので人工降雨の要求が大であることを述べられたのは印象的であった。

顧震潮さんの最後のあいさつにもあったが、時間の関係で質問はこちらから一方的に行ったにすぎないが、その質問を通じて我々の考えていることもかなり理解してもらえたようである。この討論を通じて我々が強く感じたことは、中国における気象学と気象技術の研究が非常に統一がとれて有効に進められていることである。即ち社会の要求を充つことを最優先にして研究体制がしかれているにもかかわらず基礎研究の方は充分ねりあげてから進む方針をまもっていることである。これからどのように中国の気象界が進んで行くかを考えると恐ろしいようなうらやましいような感じがする。

(141頁より続き)

中原春雄、福原耕三、中川三郎、野呂恒夫、浅井俊夫、中込敏男、小藤民雄、片山稔、新保孝吉、杉本文男、菊地武徳、進藤勉、佐藤秀雄、児島明、野島弘、桑原豊、殿村清人、力武恒夫、岡本雅典、須田友重、鈴木正、新井芳子、村井潔三、小川芳雄、経塚貢、外山芳男、金沢五寿雄、北村正亟、上代英一、高橋延男、津田直吉、高橋克巳、内藤恵吉、常岡伸祐、魚津博、田端功、藤原美幸、磯崎一郎、大塚伸、井沢竜夫、当谷万寿夫、渡辺和夫、柳沢善次、青柳二郎、市村市太郎、小平信彦、蔵重清、宇野木早苗、高田吉治、渡辺明、二宮洗三、浅井富雄、黒崎明夫、根本修、山路勲、森口実、浜昊一、高木昇、北川寿江、成瀬弘、三寺光雄、加藤博

0.5口 奥住敏、矢田明、中村繁、八木正允、角俊治
関西支部関係

50口 速水頌一郎

40口 京都地方気象台職員有志

30口 広島地方気象台職員有志

10口 間野浩、藤井義之、中野猿人、石丸雄吉、大井正道、山岡保、松野満寿巳、山元龍三郎

7口 斉藤将一、浜田測候所職員有志

5口 大西慶市、佐藤功、中島暢太郎、喜多村一男、種村都三、股野宏志、岡本夏男、明戸謙、平沢健造、高橋亥次郎、東修三、大喜多重三、川原琢磨、西内光、松岡春樹

3口 萩谷長男、添田春雄、橋本清美、松本茂、玉井駿男、西本清吉、三沢甚一、植田利政、野口篤美、鷺崎博、野本政行、箱田顕雄、住田多三郎、山本正巳、杉浦次郎、西田八重郎、大内正夫、小西敏夫、後町幸雄、齊藤行正、佐橋謙、瀬尾琢郎、高須謙一、永田四郎、堀竜夫、吉田実、水間満郎、光田寧、矢吹万寿、山口